経営比較分析表（令和4年度決算）

山形県　上山市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A6	非設置

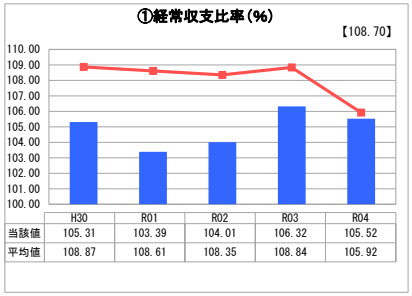
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m³当たり家庭料金(円)
-	69.21	98.57	3,795

人口（人）	面積(km²)	人口密度(人/km²)
28,584	240.93	118.64
現在給水人口(人)	**給水区域面積(km²)**	**給水人口密度(人/km²)**
28,012	37.80	741.06

グラフ凡例
- ■　当該団体値（当該値）
- ー　類似団体平均値（平均値）
- 【】　令和4年度全国平均

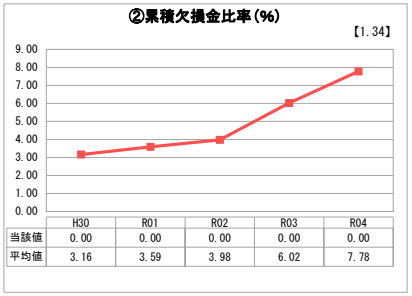
1. 経営の健全性・効率性

①経常収支比率(%)　【108.70】



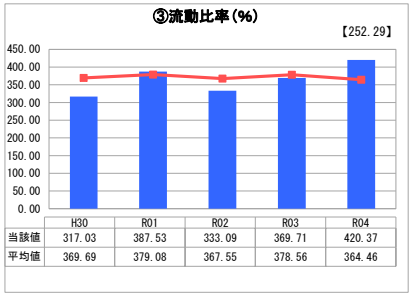
	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	105.31	103.39	104.01	106.32	105.52
平均値	108.87	108.61	108.35	108.84	105.92

②累積欠損金比率(%)　【1.34】



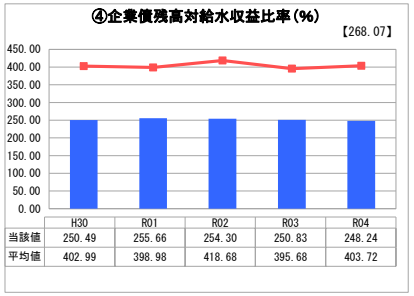
	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
平均値	3.16	3.59	3.98	6.02	7.78

③流動比率(%)　【252.29】



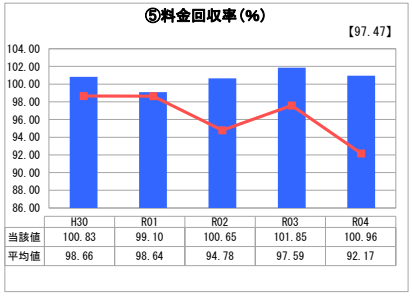
	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	317.03	387.53	333.09	369.71	420.37
平均値	369.69	379.08	367.55	378.56	364.46

④企業債残高対給水収益比率(%)　【268.07】



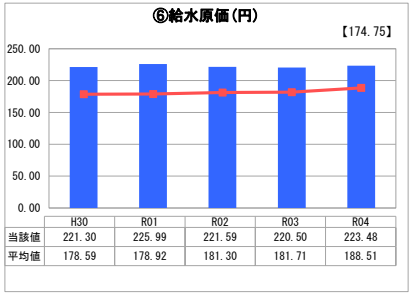
	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	250.49	255.66	254.30	250.83	248.24
平均値	402.99	398.98	418.68	395.68	403.72

⑤料金回収率(%)　【97.47】



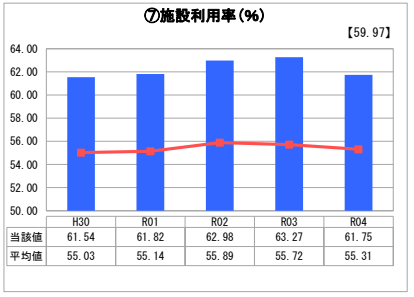
	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	100.83	99.10	100.65	101.85	100.96
平均値	98.66	98.64	94.78	97.59	92.17

⑥給水原価(円)　【174.75】



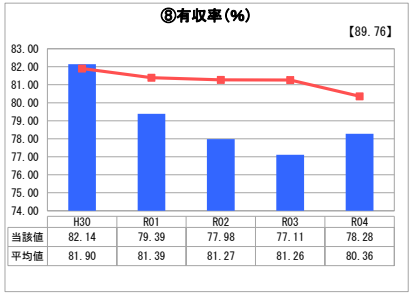
	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	221.30	225.99	221.59	220.50	223.48
平均値	178.59	178.92	181.30	181.71	188.51

⑦施設利用率(%)　【59.97】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	61.54	61.82	62.98	63.27	61.75
平均値	55.03	55.14	55.89	55.72	55.31

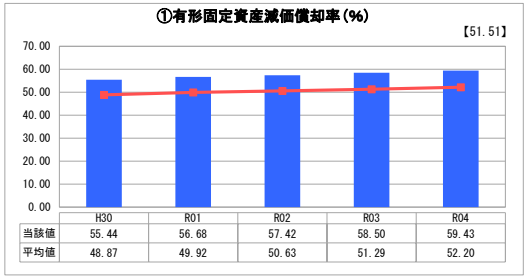
⑧有収率(%)　【89.76】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	82.14	79.39	77.98	77.11	78.28
平均値	81.90	81.39	81.27	81.26	80.36

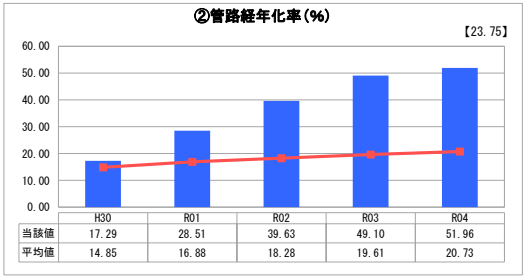
2. 老朽化の状況

①有形固定資産減価償却率(%)　【51.51】



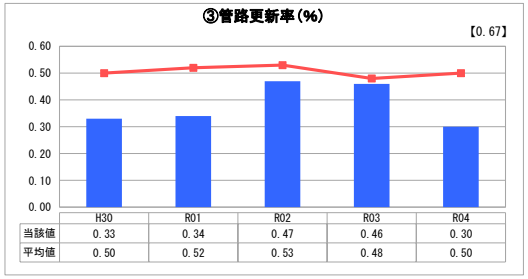
	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	55.44	56.68	57.42	58.50	59.43
平均値	48.87	49.92	50.63	51.29	52.20

②管路経年化率(%)　【23.75】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	17.29	28.51	39.63	49.10	51.96
平均値	14.85	16.88	18.28	19.61	20.73

③管路更新率(%)　【0.67】



	H30	R01	R02	R03	R04
当該値	0.33	0.34	0.47	0.46	0.30
平均値	0.50	0.52	0.53	0.48	0.50

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①　経常収支比率
　100%を超えて黒字を確保しており、おおむね健全な経営であったが、類似団体の平均を下回っており、今後健全経営を維持するためにはより経営改善に取り組む必要がある。
③　流動比率、④　企業債残高対給水収益比率
　流動比率は100%以上を超えており、支払できる現金は十分確保し、さらに借入金額を企業債償還額以下に抑え残高の縮減に努めている。今後必要となる大規模改修等の際に企業債を活用した更新投資を行いながらも、健全経営が維持・確保出来るよう計画的な取組を進めていく。
⑤　料金回収率、⑥給水原価
　100%を超えており、給水の費用が給水収益でまかなえているが、広域水道からの受水によるため給水原価は類似団体平均より高くなっている。
⑦　施設利用率、⑧　有収率
　施設の利用率は高水準で推移しているが、有収率が低く、給水水量が収益に結び付いていない。漏水の早期発見・修理と老朽管更新を計画的に進めることで有収率の向上を図っていく。

2. 老朽化の状況について

①　有形固定資産減価償却率
②　管路経年化率
③　管路更新率
　有形固定資産減価償却率は緩やかに増加している。管路経年化率は大幅に上昇しており、拡張工事時期に一斉に取得した管路の更新需要がピークを迎えているが、管路の更新率が低く老朽化が進んでいる。
　アセットマネジメント等を活用しながら、ダウンサイジングなども検討しつつ施設や管路の更新に計画的かつ効率的に取組み、安全性を高める必要がある。

全体総括

　経営状況は安定し、現在は健全な経営を保っているが、給水人口は減少傾向が続いており、水需要も減少しているため、将来的に経営環境は厳しさを増すと考えられる。今後は一層の有収率の向上と業務の効率化を図る取組を進める必要がある。
　あわせて官民連携や広域連携の取組についての調査研究を進め、より効率的な運営を目指していく。
　また管路の老朽化に対応するため、ダウンサイジングや各計画の見直しを進め、計画的な管路更新と維持管理を実施し、全体の安全性と効率性を高めていく。